

付属ARM基板でできる!



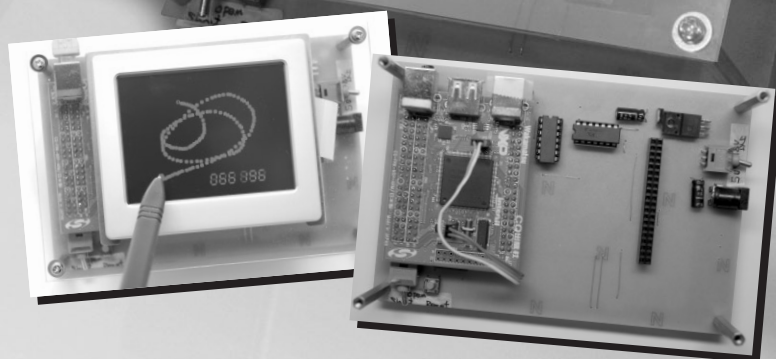
タッチ・パネル 機器の開発 (ソフトウェア編)

Interface 2009年5月号
付属ARM基板を使った

江天, 清水 剛敏

巷ではタッチ・パネルが大人気だ。この流れに乗るべく、本誌2009年5月号付属ARM基板にタッチ・パネルを接続してGUIを使ったアプリケーションを作成する。今回はタッチ・パネルを使ったGUIを実現するためのソフトウェアについて解説する。

(編集部)



Interface 2009年5月号はCQ出版Webshop
(<http://shop.cqpub.co.jp/>)で購入できます

前回(2010年2月号, pp.121-128)のハードウェア編では本誌2009年5月号に付属したARMマイコン基板にタッチ・パネルを接続し、サンプル・プログラムを動かすところまで行いました。後半では、いよいよ本格的なGUIを作ります。行うのは、GUI開発ツールの解説と移植手順です。

1. GUI 開発ツール

まずはGUIツールの選定です。今回のようなマイコンでは、あまり高機能なUI (User Interface) は載せられません。そこでアイティアアクセス社が開発した組み込み機器向けGUIソフトウェア「GEAL」(図1)を使いました。ローエンドのCPUでも動作するように開発されたライブラリで、メモリ消費量なども意識した造りになっており、パソコンではWindows上で、ターゲット上ではOSなしで動作します。開発言語はC言語で、描画ドライバもシンプル

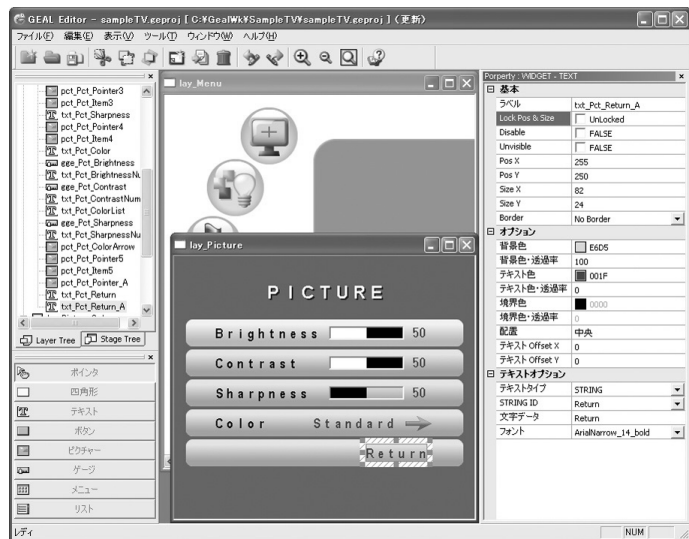


図1 GEALの概要

